

---

## 高齢透析患者の適切なリン制限目標とは

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○納富智子 船越 哲

### 【目的】

高齢透析患者の血清リン値と生命予後について考察する

### 【方法】

血液透析患者 286 名を 9 年間追跡した。対象者を 65 歳以上・未満に分け、四分位ごとの血清リン値と生命予後との関連を考察した。関連因子による調整を加え、Cox 回帰分析による解析を行った(有意水準 5%)。

### 【結果】

65 歳未満は 140 名(57.0(20.0-64.0)歳)、65 歳以上は 146 名(76.0(65.0-97.0)歳)、血清リン値はそれぞれ 6.00(4.90-7.10), 5.30(4.23-5.90) mg/dL, ( $P < .0001$ )であった。65 歳未満では、血清リン低値群に照らし血清リン高値群で有意に生存期間が短かったが(リスク比[HR](95%信頼区間):3.46(1.15-10.37,  $P=0.027$ )、65 歳以上では、血清リン高値群の生存期間が有意に短いとはいえなかった(HR:0.92(0.48-1.76),  $P=0.81$ )。

### 【結論】

65 歳未満の透析患者では、血清リン高値が生命予後に及ぼすリスクは、血清リン低値のリスクを上回ることが示唆されたが、65 歳以上の高齢透析患者ではそのような傾向はみられなかった。